

2016年5月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。公共投資は下げ止まりつつありますが、個人消費が依然盛り上がりや欠けています。一方、雇用環境は改善傾向が続いています。観光は一部にやや弱めの動きもみられますが、外国人客の入込みを中心に堅調を持続しています。このため、道北地域の景気は、基調的には持ち直しの方向にあるとみています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、4月は前年比▲0.4%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。もっとも、各店一様に減少している訳ではなく、売上を伸ばしている先もあります。
- 4月の新車登録台数は、前年比+7.2%でした。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は前年比+7.8%で比較的高い伸びでした。「軽自動車」は同+5.7%と、26年12月以来16か月振りにマイナスから脱出しました。

■観光の動向

- 4月のホテル・旅館の宿泊客数は前年比+3.3%と増加しましたが、市内のホテルの稼働率は、ホテル間の競争が増していることもあって、昨年11月以降6か月続けて前年の水準を下回っています(4月57.5%<前年59.6%>)。昨年が特殊要因(イオン開業)で伸びた反動もまだ残っているようです。

4月の当地観光は閑散期で、旭山動物園のクローズ(4/8~28日)もあ

りましたが、層雲峡が前年比+6.2%だったほか、博物館網走監獄（同+37.2%）やウトロ（同+31.0%）など大幅増加を記録した所もありました。

空港旅客数は、道北 4 空港合計で前年比+2.8%（旭川空港は同+2.1%）でした。国際線利用客数は同▲2.0%でした。

中国や台湾をはじめとする外国人客も、一頃ほどの勢いはないものの、引き続き伸びているとのことですので、観光は堅調を維持しているものと判断しました。

■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、4月入り後、新年度予算に加えて前年度補正予算にかかる発注もみられたため、ボリューム的に出始めています（315 億円）。オホーツクが前年を下回った（前年比▲25.5%）ため、全体では同▲6.0%でしたが、上川（同+15.1%）、宗谷（同+10.1%）は二桁の伸びでした。前年度補正予算は農業土木が中心ですが、これで一息つけるとしている業者も少なくないようです。このように、前年度補正予算の効果が出てきていることから、これまで減少傾向にあった公共投資は、下げ止まりつつあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引き続きタイトであることを示しています。3月の有効求人倍率は、旭川が 1.01 倍（前年 0.94 倍）、稚内が 0.87 倍（同 0.79 倍）、北見が 0.94 倍（同 0.91 倍）、網走が 0.98 倍（同 0.91 倍）でした。いずれも 2月に比べると若干下がっていますが、引き続き高水準で推移しています。

■今後のポイント

- 当月は、公共工事が幾分よくなったことを除けば、あまり大きな変化はありません。観光については、引続き堅調と判断しましたが、この先本格的な観光シーズンを迎える中、中国や台湾をはじめとする外国人観光客の動向に注目したいと思います。
- 併せて、当地経済の柱である個人消費の動向と企業の設備投資の動向に注目していきたいと思います。

以 上